

港育成園では、昨年度に引き続き、令和4年度も、ご利用者の可能性を信じて、過度に保護的、管理的にならず、主体性と、自己選択・自己決定を意識しながら、利用者支援に努めていくことができるように、職員全員でより良い支援方法を模索していきたいと思っております。ご支援ご協力よろしくお願いいたします。

## 港第二育成園

管理者

杉原 浩司



暖かな日差しが気持ちの良い季節になりました。私が港第二育成園の管理者になって3回目の春がやってきました。思えばこの2年間は新型コロナウイルスに振り回され、利用者の皆様にとっても大変な期間だったと思います。特に今年1月には1週間の休園を余儀なくされ、大変ご迷惑をおかけしました。

いつもは活気に溢れ、笑い声が絶えない港第二育成園ですが、休園期間中に誰もいない園内にいると、この港第二育成園が利用者・スタッフにとって本当に大切な場所なのだとことを痛感いたしました。3年目の今年は思いも新たに、利用者やご家族の皆様がこの先も安心して暮らせるよう頑張ります。

いつもは活気に溢れ、笑い声が絶えない港第二育成園ですが、休園期間中に誰もいない園内にいると、この港第二育成園が利用者・スタッフにとって本当に大切な場所なのだとことを痛感いたしました。3年目の今年は思いも新たに、利用者やご家族の皆様がこの先も安心して暮らせるよう頑張ります。

港第二育成園のモットーは「よく働き・よく遊ぶ」です。そこで今年度の目標は「工賃アップ」と「楽しい行事の復活」それに「安心して暮らせる」です。

昨年度港育成園から引き継いだ「製菓作業」は、コロナ禍で販路の確保が難しい状況でしたが、4月になって府庁内のアンテナショップでの販売を始めました。今後さらに販路を広げていく計画です。Instagramも始めましたので、是非チェックしてみてください。さらに受注作業も法人内外の事業所と連携して、効率よく収益アップを目指します。

行事についてはまだまだコロナが落ち着いた状況ですが、利用者の皆さんとスタッフで楽しいアイデアを出し合い、感染予防に努めながらも積極的に行いたいと考えています。

最後は利用者の皆様やご家族が安心して暮らしていける環境作りです。港第二育成園は日中の事業所なので、単独で暮らしを支えることはできません。ご家族は勿論、様々な関係機関や社会資源と繋がることで、この先も安心して暮らしていけるお手伝いが出来ればと思います。

コロナ禍という冬もいつまでも続く訳ではありません。この春の日差しのように活気と笑い声が溢れる一年を目指し、スタッフ一同頑張ります。

## ワークスいけじま

管理者

織田 洋一



この度、ワークスいけじまの管理者として拝命いたしました織田洋一です。宜しくお願い致します。

福島育成園で計12年間、東育成園で4年間の勤務を経て現在に至ります。これまでの経験をワークスいけじまでの支援に活かすことが出来れば良いと考えていますが、至らない部分はそれ以上にあると想像しております。これから起こるであろう新しい出会い・想像もしなかったような状況・勉強不足への気付き等々を糧とし、より良い支援に繋げることが出来るよう努めていきたいと思っております。

ワークスいけじまは平成9年11月に港第二育成園の分場施設として開所し、一旦企業就労したものの、体力的・年齢的等の理由から「それでも働きたい」という声に応えるために、「働き続ける場を提供する」という目的で施設運営が始まりました。その後、平成22年4月に港第二育成園より独立し、「就労継続支援B型事業所」に移行しました。

ワークスいけじまは現在16名のご利用者の方々が在籍しており、46歳～75歳までのご利用者の方々が毎日、仕事をするために通われています。令和4年4月の時点で、ご利用者の方々の平均年齢は55.75歳になっており、高齢化も徐々に進んできています。スタッフの支援としては、作業提供だけではなく日々の様子の変化に気付くことが出来るようご利用者の方々の状況や状態の把握に努める必要性が高まっております。

また、医療機関をはじめ、相談支援事業所・訪問介護事業者・後見人・グループホーム等がご利用者の方々の生活を支援できるよう連携をとっています。ワークスいけじまもご利用者の方々の生活を支援するための一つの事業所であることをスタッフ一同自覚し、他の関係機関との連携に努め、「ワークスいけじまだけで完結しない支援」を引き続き行ってまいりたいと思います。